

男子代表:見城崇選手観戦レポート

文:堤飛鳥四段(静岡)

東海地区男子代表の混戦を勝ち抜いた見城崇。今まで白砂貴之という大きな壁が立ちはだかっていたが、今年は白砂貴之が中学生になったこともあり、優勝を狙う者も多くいたであろう。そんな中、見城崇が優勝という結果となった。彼が3年生のとき静岡市の西奈児童館に来たときから本格的に指導し始めた。最初に大会に参加したのは、豊橋で行われた東海大会であった。トーナメントに残る事ができなかったものの、チャンピオン戦で見事優勝。東海地区で上位争いしているのは、このことがきっかけとなったようである。

チャンピオン戦での優勝後、見る見るうちに彼の技は上達し、その後の東海大会では3位、準優勝と成績をあげていくなど好成績を残している。しかし、優勝までには大きな壁があったのだ。それが白砂貴之である。そしてさらには女子の代表である湯山瑛子の兄、湯山貴弘の存在があったに違いない。県大会などで何度も試合をしているが、本格的にけん玉を練習したのが周りより遅かったためか、いい所までくるものの一步及ばず。だがこのような仲間がいたからこそ本人をやる気にさせたのであろう。昨年の東海大会では決勝で白砂貴之とあたり準優勝であったが、県大会では優勝することができた。彼にとって文部科学大臣杯出場を目指すいいステップアップとなった。

東海大会に向けての練習は、予選種目・決勝種目とも成功率の向上を図るため、得点をつける表を作るなど努力していた。また、自分が相手となり決勝の模擬試合をしたり、タイム競技といった地道な練習をしてきた。表に関しては何人かはやっているであろうが、得点をつけることで成功率など目でみて確認できるため、良い練習方法の1つになるかと思う。そしてタイム競技の練習であるが、もちろんスピードが要求されるがその前に確実に5種目の技をできるように心がけた。ミスを少なくする事でタイムロスをなくすことができる。そのため慌てて技をするよりもいいタイムが出せるのだ。

本戦に向けての練習であるが、決勝種目に重点をおき、東海大会同様成功率を上げるために技を連続成功させるなどといった特別メニューを作った。特に後半種目より前半種目の方が確率が悪かったため、ニアミスしないよう心がけながら指導にあたった。



また、8月中に東海地区の選手数を集め2度の強化練習を行った。1人で練習するよりも仲間がいることで競技意識がたかまり、練習に集中できていたように思えた。このような練習をし、本戦に臨んだ。

本戦前日に会場入りし、説明会に参加。全国から集まった強豪を前に少し緊張していた面もあった。説明会では競技説明のほか得意技が披露された。見城崇は両手世界一周を披露。事前に予定していた技を数日前に行った強化練習の際に急遽変更した技で挑み、何回か失敗はしたものの見事成功させ会場を沸かせた。夜は部屋で最終調整をし当日に控えた。

決戦当日、観客の多い池袋サンシャインの噴水広場で戦いの火蓋が切られた。一回戦の相手は岡山の土居選手。雰囲気には圧倒されたのか試合早々最初にミスをしてしまった。しかしタイム競技へ持ち込み見事一回戦突破。練習の成果が表れたように思えた。そして2回戦、相手は大阪の杉山選手。毎日何時間も練習し、優勝しかねらっていないという強豪であったが、なんと今までに見た事のない選技の勘違いにより相手がミスしたことで1本先取。このまま1対0で見事勝利し決勝へ進出した。決勝戦では予想通り昨年も出場している広島の後藤選手が相手となった。1回戦から波に乗ったのかいい滑り出して相手のミスもあり1本先取。このまま行けば優勝も近いと思った矢先、ミスをしてしまい1本取られてしまった。しかしその後は引き分けに終わりタイム競技へ突入。今大会の見せ場となった。タイム競技の結果負けはしたものの、ほんの1・2秒の差であった。ここまで戦えた事は予想以上のできであり、見城崇本人の運の強さと本番での実力の発揮を改めて実感した部分でもある。



今回教え子を第17回文部科学大臣杯全日本少年少女けん玉道選手権大会へ出場させ、さらに準優勝という結果までついてきたことは自分にとってもいい経験となり、今後の指導に大いに役立つものになる事は間違いないであろう。また、今大会からは連続出場者の強さや粘り強さに加え、全国の壁の高さを改めて感じた大会となった。そして最後に今回このような良い結果が出せたのは、大川一門という大きな存在や東海地区の多くの選手・ライバルがあったからこそである。今後も全国で戦える選手の育成など指導者共々頑張っていけたらと願っている。

女子代表:湯山瑛子選手観戦レポート

岩田祥四段(御殿場)

2005年8月28日、この日は普段買い物やイベントを楽しむ人々によって、和やかな雰囲気に包まれている東京池袋のサンシャインシティが、一年で唯一空気の張り詰めた戦いの場となる日—そう、小学生けん玉プレーヤーにとって憧れの地である、「全日本少年少女けん玉道選手権大会」の会場となる日がやってきました。

今年の東海地区の女子代表は、二年連続の出場となる湯山瑛子選手です。

地区大会決勝トーナメントで、ただ一度のミスもしないという圧倒的な強さで優勝した湯山選手に対し、周囲の期待が昨年以上に高まっていくのが、大会の一ヶ月も前になる頃には、ひしひしと伝わってきました。選手をサポートする立場にいる私でさえ、それを感じ取ることができたのですから、選手本人にとっては、それが想像を絶するほど重いものに感じられるのではないかと、非常に心配していましたが、まるで何のプレッシャーもないかのように、黙々と厳しい練習メニューをこなしてゆく、わずか小学校3年生とは思えないほどの強靭な精神力には、ただただ脱帽するばかりでした。

初戦の対戦相手は、北海道地区代表の横田柚梨菜選手です。

第一選技は、成功率の高い宇宙一周でしたが、横田選手が一回目を失敗したために、

そのチャンスを逃すことなく湯山選手がポイントを先行します。

続く第二選技は、ふりけん〜もちかえて〜はねけんでした。難易度の非常に高い技ですが、湯山選手の前日までの仕上がり具合から、おそらく三回とも成功させるだろうと予想していました。しかし二回目にまさかの失敗。横田選手に同点とされ、ポイント1対1によるタイム競技とされてしまいます。大半の選手は、ポイントを先行した後に追いつかれた場合、多かれ少なかれ動揺が表に出てきてしまうものですが、湯山選手にとって、このタイム競技は十八番。不安などまったく感じさせない、18秒22のタイムで見事勝利を収めました。初戦ゆえの、ごくわずかな体の硬さですが、ふりけん〜もちかえて〜はねけんの失敗の原因であると思いますが、得意のタイム競技で勝利することができたため、この後の試合では恐らく従来の調子を取り戻すことができるのではないかとというのが、私の受けた印象でした。



その後、決勝進出者二名以外で行われる恒例イベント「タイム競技大会」では13秒44という高記録で見事優勝し、有終の美を飾りました。

突然起こった乱調の原因かどうかは定かではありませんが、前述した通り、今年の全国大会では湯山選手に対する周囲からの期待の強さを感じました。そこから生じるプレッシャーは、いかに強い精神力を持ってしても、すべてを克服することは不可能です。二年連続の出場ともあれば無理もないかもしれませんが、試合とはあくまで選手本人の物であり、自由にプレイを楽しめる場であるべきです。

けん玉という競技は、技術だけでなくメンタルの面も大きく関ります。今後のけん玉界のためにも、「選手のメンタルケア」は、指導者が一丸となり取り組んでいかなければならないテーマと言えるでしょう。



続く準決勝は、強豪地区、関西代表の嶋野楓実選手との試合でした。第一選技の一回転灯台は、両選手とも三回成功させ、ドロー。ここでの湯山選手のフォームは確実に本調子と言い切ることのできる、非常にきれいなフォームでした。しかし、「これならば、どんな技でも成功し続けられる」と私が思った直後、誰もが予想できなかった突然の乱調という事態が、湯山選手の身に起こってしまいました。第二選技のさか落とし、第三選技のつるしとめけん、続けざまに失敗をしてしまったのです。第一選技とは違って変わり、精細さに欠ける姿は、見ていた私も動揺を隠せませんでした。結局、嶋野選手が、この間に失敗をすることはなく、ポイント2対0で準決勝敗退が決まりました。全国ベスト4という胸を張ることのできる結果ですが、湯山選手の表情からは悔しさが滲み出ていて、この、けん玉に対して本気で取り組む姿勢が、湯山選手の強さなのだということを、改めて実感させられました。



第3回けん玉ペインティングコンテスト・レポート

大川英一郎六段(沼津)



見てください。

すばらしいけん玉の数々がズラリ！！これは、毎年全国から約5000件の応募のなかからステキなペイントのけん玉を選ぶ、というコンテスト、

「第3回けん玉ペインティングコンテスト」

の優秀作品なのです！

文部大臣杯に先立って、その表彰式がとり行われました。

まず専用の応募用紙に絵を書いて、先生などを通じて本部に送られます。これら一つ一つに、専門家の美術大学の先生方がすべて目を通すのです。なんという気の遠くなりそうな作業でしょう。

こうしてまずは一次審査が終了。この時点で、残った作品はわずか200点！！

昨年は御殿場児童館・けん玉クラブの永井阜(ながい・さつき)くんが見事この難関を突破、サンシャインシティに彼のけん玉が飾られたわけですが、今年はビックリ！！二人も審査を通過してしまいました！

見事通過したのは三島ようらん保育園に通う上林伶奈(かんばんやし・れな)ちゃんと丸山遼(まるやま・りょう)くん。二人のけん玉は表彰式の会場にしっかりと飾られていました。

れなちゃんの作品は、さらに部門ごとの優秀賞にまで選ばれてしまいました！！表彰式では幼児の部からの表彰で、トップバッターとしてステージに上がったので心配しましたが、立派に受け取ってきてくれました。

ワタシの教え子のなかで表彰までされたのは今回が初めて。良かったなああと心から思いました。





以下、れなちゃんのお母さんからコメントをいただきました。ありがとうございます。

けん玉ペインティングコンテストに、親子で何も考えず、遊び心で応募しました。

一次審査・二次審査を通過して、8月28日に東京池袋サンシャインシティでのけん玉ペインティングコンテスト表彰式に行ってきました。

大勢の人たちが見ている前で、泣き出すことなく、しっかり賞状を受け取ることができたときは、親としてほっと一安心しました。すばらしい経験ができたことをありがたく思っています。

優秀賞のれなちゃんと、200/5000 作品を通過したりょうくんのペインティングけん玉です。↓

